



ND BULLETIN

Vol.208
issue
September 2022

[学長メッセージ]

「多様な学生の受け入れについて」



聖書の言葉

イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

ヨハネによる福音書 20章 21節

イエスが語る平和（ヘブライ語で「シャローム」とは、平穏無事にとどまらず、神、自身、そして自分を取り巻くすべての人や物事との調和、そして、それを望み、祈り、生きようとする心の状態を指します。

ユネスコ憲章にも、こんな一文があります。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」そのための教育が必要だと訴えます。平和の反対は戦争に限りませんが、暴力、破壊、偏見差別、憎悪や嫌悪を止め、人間同士を癒しと和解へと導くのは、わたしたち次第なのでしょう。

イエスの派遣の言葉は、平和は他者とともに生み出し、育むことができるという励ましをのびます。周囲に起こる大小の争いを終わらせ、他者との対話、連帯を通じて、誰もが「生きられる」「生きよう」と思える。そんな社会の担い手となれますように。

キリスト教文化研究所 岡田紅理子 講師

Mini Serialization

Seishin Archives 今に続く清心の歴史をご紹介します ノートルダム清心女子大学全景



絵はがき「ノートルダムホール完成図」(1930)

ノートルダム清心女子大学の校舎であるノートルダムホール本館、東棟(アントニン・レーモンド設計)は、前身の清心高等女学校の校舎として1929年に竣工されました。写真は、絵はがきとして配付された「ノートルダムホール完成図」です。この完成図と、現在のキャンパスを比べると、附属幼稚園、附属小学校の設置や、体育館、附属図書館、中央棟など教育施設の充実が見られます。このように時代が変化するなかにも、本館・東棟は、竣工以来93年間、変わらない姿で今も使われ続けている教育施設として学生・教職員に親しまれています。

現在のキャンパスはこちら



ノートルダムの風景 「とある清心生の一日」

コロナ禍でオープンキャンパスに参加しにくい状況が続いたこともあり、学生生活を気軽に体感してもらえる動画を制作しました。

入試広報部と在学生スタッフ(キャンパスナビゲーター)が協働で制作を進め、学生目線で、大学生活の様子や学内の雰囲気伝える内容になっています。動画を視聴して、普段の学生生活を体感してみてください。

QRコードから動画とブログをご覧ください。



学生生活動画

とある清心生の一日



Cover : オーケストラクラブ

1967年に創設されて本学で長く続くクラブの一つ。現在部員13名。コロナ禍にあっても、教室を分けて距離をとるなど工夫しながら練習を積んできた。2021年は、びあ祭に参加し、在学生たちとの交流の機会を設けた。現在は、11月開催の大学祭で演奏するため、部員一同、日々練習を重ねている。

ノートルダム清心女子大学 BULLETIN Vol.208

発行 ノートルダム清心女子大学 広報室

2022年9月30日

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

TEL(086)252-3107 <https://www.ndsu.ac.jp/>

2021年度卒業証書・学位記授与式

2022年度入学宣誓式

JUEMUN 本学が関西圏以外で初の開催校に

2023年度からの 多様な学生の受け入れについて

学長 シスター 津田 葵

ノートルダム清心女子大学は、本学の教育理念の実現に向け、自身の性自認にもとづき、本学で学ぶことを希望するトランスジェンダー女性(戸籍上男性であっても性自認が女性である人)を2023年度から受け入れることを決定しました。

トランスジェンダー女性は「多様な女性のうちの一人」です。出生時の性(戸籍の性)が男性であることに違和感があり、自認の性(女性)で生きることを切望している人です。

本学では、それぞれが自分らしく生きることができるようさまざまな場面で、共生社会に向けての学びの機会をこれからも作って参りたいと

思います。多様な一人ひとりが、あらゆる分野に参画し活躍できる社会の実現につながっていくことを期待しています。

受け入れの「ガイドライン」をホームページに公開いたしましたのでご覧ください。

なお、在学生の皆様に対しては、多様な人々に関する研修会や講演会を定期的に行い、意識の醸成を図っていくことにしております。

保護者の皆様におかれましては、なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

ガイドラインは
こちら



大学院文学研究科

英語英米文学専攻博士後期課程(設置届出中)

本学の基本理念であるキリスト教精神に立脚し、広い視野と高度な専門性をもって人間存在のあり方を問うための研究を行い、専門分野の教育と研究を牽引する研究者、および日本と海外との文化・学術的交流に貢献しうる国際的な高度専門職業人を養成することを目的として、英語英米文学専攻博士後期課程の設置を予定しています。

入学定員：2名(収容定員6名)

就業年限：3年(長期履修制度あり)

学 位：博士(文学)

2023年(令和5年)4月開設予定です。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

詳細や募集(春季)については、
大学ホームページをご確認ください。



大学院第26回学部第70回フード授与式 大学院学位記及び学部卒業証書・学位記授与式

3月14日(月)に大学院第26回学部第70回フード授与式並びに大学院学位記及び学部卒業証書・学位記授与式が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として3月8日に予定されていたフード授与式を、卒業証書・学位記授与式と同日に行いました。

前日の激しい雷雨から一転、穏やかな日差しの中、修了生及び卒業生505名が式典に臨みました。キャップとガウンを身に着けた学生が全員で祈りを捧げ、学位を象徴するフードを一齐に身につけアカデミックドレスを完成させました。これは学生が本学の教育課程を修了したことを意味します。アルベルト・ジャルト神父(カトリック岡山教会)の祈りの後、聖歌を心の中で静かに歌いました。

続いて行われた卒業証書・学位記授与では、津田学長が各学科代表学生一名に卒業証書・学位記を手渡しました。壇上の学科代表学生にあわせて、学科全員がキャップの房(ふさ)を左から右へうつし

「学士」となりました。式典後、学生たちは各学科に分かれ、教員、友人との別れを惜しみました。

記念として贈られたロザリオブレスレットには十字架と聖母マリアのメダイが付され、学長からのメッセージカードも添えられました。



ノートルダムデー

紅梅の花咲く3月3日(木)ノートルダムデーが行われました。本学では、この日からフード授与式を経て、卒業証書・学位記授与式にいたるまでの期間を、「大学で過ごした4年を振り返る時期」と位置づけ、学士候補生が卒業への準備を始める日としています。

津田学園理事長(兼学長)が『女性がリーダーシップを発揮するロールモデルの構築に向けて』と題し講演。私たちを取り巻く厳しい現実に触れ「すばらしいIT技術があったとしても、人間的な触れあいと愛の交流がなければ相手を真に癒やすことができないということを忘れないでください。」と呼びかけ、最後に「たとえ過酷な状況に見まれても、そこでどう生きるかという人間のあり方といった自由は、だれにも奪われないことを、心に銘記してお過ごしになられますように。」とメッセージを贈りました。その後行われた聖書の集いで学士候補生たちは、静寂の中で聖書のことばに耳を

傾けました。一人ひとりがこれまでの4年間の大学生活を振り返り、与えられた恵に感謝し静かに祈りを捧げました。



4月

April

Event

2022年度入学宣誓式を挙行

4月2日(土)本学記念館にて入学宣誓式が挙行され、学部472名、大学院7名の計479名の学生が入学しました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者の方の参列はご遠慮いただき、新入生と教職員のみが出席しました。また、3密を防ぐため、文学研究科・文学部は10時から、人間生活学研究科・人間生活学科は13時30分からと二回に分けて行われました。

式典では、アルベルト・ジャルト神父による祈り、聖歌につづき、新入生による宣誓が行われました。新入生たちは「真理探究に専念し、建設的協力の精神をもって学内の諸活動に参加し、学風進展に寄与することを固く約束いたします。」と声高らかに宣誓しました。

学長式辞では、津田学長から「さまざまな場での体験、人々との出会いを通して学びの実績を積み重ね、その成果が豊かに実っていくことを願っております。」とお祝いの言葉が贈られました。

歓迎の辞では、在学生代表の4年生 文学部日本語日本文学科 出原明日佳さん、人間生活学部食品栄養学科 藤澤美里さんがお祝いと歓迎のメッセージを贈り、新入生挨拶では、代表の文学部現代社会学科

岸本侖実さん、人間生活学部食品栄養学科 三浦萌さんが学生生活への意気込みを述べました。



4月

April

Event

入学感謝ミサ

4月9日(土)本学記念館にてアルベルト・ジャルト神父の司式により入学感謝ミサが執り行われました。学部生472名、大学院7名が入学への感謝の思いを胸に、これから始まる大学生活の安全と無事を祈りました。

福音朗読「ルカによる福音書10章25節～37節」の後、アルベルト神父は説教の中で「学園生活における人間関係がさまざまな問題によって壊されることのないように。できる限りあなたたちが力を合わせて、互いに理解し合い、励まし合い、愛し合うことができるよう祈りましょう。」と語りかけました。

共同祈願では、津田学長が、「コロナ禍にありながらも、明るい陽射しを受け新入生をお迎えできたことを感謝いたします。これからの学生生活が実り豊かで意義深い日々になりますように。」と、学びの日々が充実したものになるよう祈りを捧げました。



渡辺和子先生の遺産「一隅を照らすこれ国宝」—— 文学部教授 広瀬佳司

岡山生まれでない私が、34年も本学でお世話になるとは正直夢にも思わなかった。キリスト教については、ほとんど何も知らず、故渡辺和子理事長の採用面接を受けて別世界を感じたのは事実だ。その時、渡辺先生に「先生大丈夫ですか？」と最後に訊ねられ、私はその質問の意図もわからないまま、「はい大丈夫です。」と答えたが、渡辺先生の真意は今も不明だ。しかし、34年間の教育と研究を収めることができ、名誉教授の称号も頂けたことに感謝したい。英語英文学科の学科長職も十数年させていただいた。正直のところ、大変なこともたくさん経験し、体調を崩したこともあった。それにも拘らず、教育と研究は本当に楽しむことができた。今でも34年前の教え子たちとも交流を続けている。本学には、少人数教育で家庭的な人間関係がある。これはマンモス大学ではありえない。それが、渡辺先生の目指していた教育理念なのだろう。

キリスト教の大学で教鞭を執りながら、ユダヤ教や

ユダヤ系アメリカ作家の研究をした。日本ではまだまだ知られていない戦前の東欧・ロシアでユダヤ人が日常生活言語として用いていたイディッシュ語という言葉、オックスフォード大学へ留学し本格的に学ぶことができた。それも当時、学科長であったシスター辻弘子教授が私の希望を快く受け入れてくれたおかげである。この言葉を学び、ユダヤ文化を理解し、本学の学生や海外での講演という形で還元出来たのは喜びである。



文学部英語英文学科教授、文学研究科英語英米文学専攻主任、英語英文学科長、附属図書館長等を歴任。2022年4月名誉教授。

20年間の思い出

人間生活学部教授 平松清志

着任以来ちょうど20年間の勤務でした。児童学科の教員として、保育士・初等教育教員・特別支援学校教員の養成等に関わりました。もともと小学校教員として社会人生活を始めた私には教育現場への親和性がありましたし、特別支援教育の経験もありましたから、少しは貢献できたのではないかと思います。また大学院では臨床心理士、公認心理師の養成等にも関わりました。着任早々には、臨床心理士養成大学院の第1種指定校の認定を受けるための審査準備に奔走したこともありました。私の関心は、箱庭療法を中心とした心理療法の理論と実践に関する研究でしたので、社会貢献活動のひとつとして地域からのクライアントを受け入れることができる相談室を備えた、児童臨床研究所員として実践と研究の場が与えられたのも幸いでした。

しかし、なんといっても大学教員としての魅力は、卒業論文、修士論文などのゼミではないでしょうか。学生が

持ち込む様々な研究主題について、心理学という視点からあれこれと考え、議論もしながら実証的な研究手法を考案していくのは楽しみでもあり、自分自身も鍛えられたと思います。

本学の教育研究活動の益々の発展を祈ります。



人間生活学部児童学科教授。人間生活学研究科人間発達学専攻主任、児童臨床研究所長、特別支援教育研究センター長等を歴任。2022年4月名誉教授。

5月
—
May
Event

第71回キャップ・アンド・ガウン授与式

5月14日(土)本学記念館において第71回キャップ・アンド・ガウン授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症拡大により一昨年度の69回、昨年度の70回と中止が続き、3年ぶりの授与式となりました。

晴天にも恵まれ、文学部234名、人間生活学部298名の計532名の学生が式典に臨みました。

厳かな雰囲気の中、キャップとガウンを身に付けた4年生が「多くの方々のご期待に添うよう努力いたしますことを、この宣誓によって、かたくお約束いたします」と宣誓し、学士候補生としての自覚と責任を持ち卒業に向けて努力することを誓いました。

学長式辞では、津田学長が、これから卒業論文に取り組む学生たちへ「座学だけでは学習できない能動的な研究に取り組み、その研究に真摯に向き合い、研究活動を通じて学習者としてさらなる成長へとつながっていくことを願っております。」と励ましの言葉を贈りました。

授与式は感染症対策のため、文学部と人間生活学部

の二回に分けて催されました。入場は行わず、聖歌も声を発せず心の中で歌うなど制限がある中での開催となりましたが、教職員が見守る中、学士候補生たちは決意を胸に卒業に向け、新たな一歩を踏み出しました。

保護者の方のご参列はご遠慮いただき、式典の様子をオンライン配信しました。

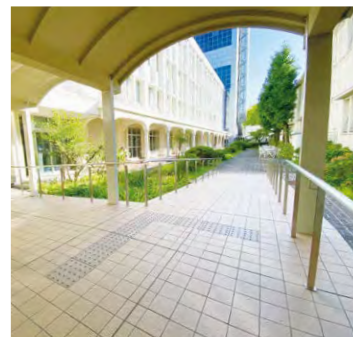


キャンパスの環境整備

2021年度からキャンパスのスロープ整備が進められました。

ノートルダムホール本館1階、ジュリーホール西側入口等も自動ドアを設置し、スロープにすることによって段差を解消し、バリアフリー化を進めました。ヨゼフホール1階からロゴスホールに続く通路も、自動ドアに変更し整備しました。

附属図書館には、3階までのエレベータ設置工事が進められており、2022年度内に完成予定です。



ジュリーホールテラス



学生通用門



ヨゼフホール1階ロビー

6月
—
June
Event

JUEMUN — 日本大学英語模擬国連大会 — 本学が関西圏以外で初の開催校に!

2022年6月24日(金)から26日(日)にノートルダム清心女子大学で「JUEMUN(Japan University English Model United Nations)」が開催されました。JUEMUNは、大学生を対象とし、会議の準備から本番の運営までをすべて学生主体で行う英語の模擬国連大会です。

11大学約160名の学生が、各国の大使となり、今回のテーマ「世界遺産を未来の世代のために保護する」についてMeeting、Committeeと細かいグループに分かれ、3日間を通して英語で白熱した議論が行われました。

テーマ(議題)は毎回SDGsに基づいて設定され、自国の利害を加味しながら他国と交渉・議論を重ね、問題解決を図ります。模擬国連を通して、英語力、課題に関する調査を通じた情報収集能力、世界規模の課題への見識、問題解決能力、ディスカッション能力、ディベート能力等を身に付けます。



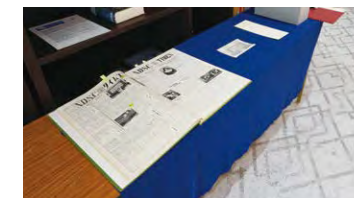
7月
—
July
Event

自校史教育 — アーカイブを使った授業 —

2022年度1期に新たに開講された「キリスト教学XIV」(小林修典教授)において、本学のアーカイブ資料が7月1日(金)の授業で学生たちに紹介されました。

この授業は日本の教育とキリスト教の関連を扱うもので、本学の創立の理念と歴史について学ぶ機会も作っています。学生たちは開学間もないころの『NDSC TIMES』(1952年発行)の記事から、行事の意味を改めて認識したり、20周年記念の学生の文集から、当時の学生生活に理解を深めたりしました。1952年ごろの卒業アルバムを見た学生は、「髪型が皆同じ」など当時の文化にも興味を持ったようです。

この授業を通じて学生たちは、本学で学ぶことの意義を考えることができました。



1950~60年代の学生新聞



国際交流センターでの資料閲覧



歴史展示室

9月
September
Event

国際交流センターをリニューアル

学務部(112ND)内にあった国際交流センターを、ヨゼフホールラウンジにリニューアルし、9月6日に移設しました。セミナールームとコモンスペース、事務室を配置しています。

セミナールームは、国際交流関連の会合のほか授業にも使われます。コモンスペースには、ブースが設けられ、グループまたは個人での作業ができるようになっています。照明にも配慮し、明るい空間で、学生が集いやすくなることを目指しています。

本学では、海外に留学することにより、異文化を知り、自己及び自国を再認識するとともに、国際的視野を

持つことのできる人材を育成することを目的とし、協定大学等との協定に基づき、海外で学ぶ機会を設けています。

国際交流センターでは、学生が海外で学ぶためのサポートを行い、海外からの留学生の受け入れ窓口にもなっています。



入口の様子



セミナールーム



コモンスペース

9月
September
Event

学務部の学生サービス窓口が一本化されました

学生係と教務係の窓口を、9月5日に統合し、一本化しました。学生サービスのさらなる向上を目指しています。

窓口では、履修登録、授業、成績、各種証明書、教室の利用、免許・資格、学生生活、奨学金に関すること等を取り扱っています。

このことにより、窓口でスムーズに手続きをしたり、相談したりすることができるようになるため、学生サービスの向上が期待されます。

その他、大学から学生への連絡や通知は、Nサポ及び学内の掲示板で行なっています。在学生の皆さんはNサポを確認し、大学内では掲示板も確認するようにしてください。

開室時間

8:30~16:30(月~金) / 8:30~12:30(土)

※証明書自動発行機は、授業期間中の18:00までと平日の昼休憩の時間帯(11:25~12:25)も利用できます。(利用は在学生に限る。)



4月
April
Event

世界自閉症啓発デー&発達障害啓発週間にブルーライトアップを実施 岡山県自閉症協会 「アスのワニ プロジェクト」へ協力

「国連が定めた世界自閉症啓発デー」(4月2日)と「発達障害啓発週間」(4月2日~8日)の夜間(17:00~22:00)ノートルダムホール東棟及び中央棟オラトリー(小聖堂)をブルーにライトアップしました。これに合わせて学生有志が岡山県自閉症協会の「アスのワニプロジェクト」に参加しました。

毎年世界自閉症啓発デーと「発達障害啓発週間」に合わせて世界中で癒やし、希望、平穏を表す「ブルー」をシンボルカラーとしてイベントやライトアップが行われます。本学も昨年に引き続き、岡山県自閉症協会との共催というかたちでこの取り組みに参加しました。

今年はさらに、協会が2020年から展開している自閉症・発達障害への理解を広めるためのプロジェクト「アスのワニ プロジェクト」(「明日」と英語のus(私たち)に「和に」「輪に」をかけた)に学生が協力。本学のブルーライトアップを背景にNHK発達障害キャンペーンイメージソング、「アスファルトのワニ」のピアノ演奏やインタビューの動画撮影・配信などを行いました。

また、プロジェクトのシンボルキャラクターのワニをモチーフに、無料通信アプリ・LINE(ライン)用スタンプの作成にも挑戦しました。



ブルーは聖母マリアを象徴する色でもある

5月
May
Event

ウクライナ緊急支援募金の実施と寄付

2022年5月11日(水)、12日(木)の二日間、人間生活学科学生有志がウクライナ緊急支援募金活動を行いました。5月末日まで学内7か所に募金箱も設置され、合わせて国際医療ボランティアAMDAへ寄付されました。

ウクライナを支援するため、自分たちに何かできないかと学生有志が学内で募金を呼びかけ、多くの学生や教員が募金を行いました。

4月下旬、ウクライナの隣国ハンガリーで支援活動を続ける国際医療ボランティアAMDA理事 難波妙さん(本学卒業生)の支援内容を伝える特別講義が行われ、その支援内容に賛同した学生たちにより企画されました。

6月4日(土)贈呈式が行われ、集められた募金(217,383円)は本学学生、附属小学校および幼稚園の児童・園児たちにより特定非営利活動法人AMDAに寄付されました。



写真右端が難波さん



6月
—
June
Event

「OHK×ゼロプロジェクト」動画に 本学学生が字幕制作協力

OHK岡山放送が長年取り組んでいる「OHK×ゼロ・プロジェクト」に、本学英語英文学科の学生が日本語字幕制作で協力しました。

ゼロ・プロジェクトとは、オーストリアに本部を置くエッセル財団が、2008年に始めたプロジェクトで「ゼロバリア(障壁の無い世界)」を合言葉に、障害者が抱える課題を解決したり、障害者の生活を向上させたりしている取り組み・政策を応援し、優れた取り組みを行なった団体を表彰しています。

2022年2月に手話放送プロジェクトで「ゼロ・プロジェクト・アワード」を受賞したOHK岡山放送が世界の先進的な取り組みを日本語で紹介するサイトを立ち上げました。この動画の吹き替え・字幕翻訳に英語英文学科の「International communication seminar」を受講している8名の3年生が取り組みました。

学生たちはプロジェクトの趣旨を理解し、約1か月をかけて計10本の動画の字幕を完成させました。この動画は6月6日からOHK岡山放送の情報番組の中で毎日1本ずつ放送されました。



6月
—
June
Event

岡山市「学生イノベーションチャレンジ 推進プロジェクト」に4事業採択

2022年6月23日、岡山市の「令和4年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト※¹」の「学生ソログループ部門※²」に今年も、次の4団体4事業が採択されました。現在各グループは取り組みを進めており、その様子はブログでお知らせしています。ぜひご覧ください。

団体名	事業名
ツボジョーワールド探検隊	坪田譲治が伝えた豊かな心から見る福祉の探究と発信—SDGsの視点からあらゆる人が共生する未来へ—
おかやま★朝ごはん	若者視点による岡山市の魅力発信とプロモーション活動の推進
京山活性化プロジェクトチーム	世代間交流によるデジタル情報機器利用格差の改善事業
奉還町盛り上げチーム	奉還町商店街を拠点とした、学生ネットワーク構築事業

※¹「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」とは、学生が、企業や地域、NPO等と協働して、若者ならではの柔軟なアイデアの提案・実践によって地域課題の解決や、大学で学んだスキルを活用した起業へのチャレンジ等に取り組む活動に対し、岡山市が補助金を交付して支援する事業です。(岡山市サイトより)

※²「学生ソログループ部門」とは、各大学内でグループを作って取り組む事業の部門です。



7月
—
July
Event

2022年度「清心felice講座」再開

コロナ禍のために2年間中止していた「清心felice講座」が、2022年7月に再開しました。無料の公開講座の新設に加え、土曜講座を増やし、高校生や大学生の方、勤労者の方々への受講に配慮しました。

■生涯学習講座

本学の建学の精神であるキリスト教信仰についてわかりやすく学ぶ聖書講座、キリスト教の思想や文化、いきがいについて考える講座などがあります。

■公開講座

2022年度より開始した無料の公開講座です。高校生以上であればどなたでも受講できます。SDGsやインクルーシブ教育・実践に関する講座などがあります。

講座内容や申し込み方法は「生涯学習センター清心フェリーチェ」のサイトをご確認ください。



7月
—
July
Event

ノートルダム清心女子大学 エコロジー活動2022

本学が推進するグローバル・サステナビリティ教育に基づき、本年度も岡山県の「ライトダウンキャンペーン」及び大学コンソーシアム岡山※の「エコナイト」の取り組みに賛同し、以下の取り組みを実施しました。

- 5月1日～10月31日 クールビズの実施
- 6月15日(水) マイ・カー乗るまあDAY
- 6月21日(火) ライトダウン (岡山県ライトダウンキャンペーン)
- 7月7日(木) ライトダウン (岡山県ライトダウンキャンペーン/大学コンソーシアム岡山エコナイト)
- 7月9日(土) 奉還町商店街イベント「エコナイト夏」(大学コンソーシアム岡山)
- 11月1日～2023年3月31日 ウォームビズの実施

を消すことで、電気の大切さや、省エネルギーについての意識を高めて、地球温暖化防止を進めていくことを目的としており、キャンペーン期間中、電気を消して、地球のことや、エネルギーについて考えました。



7月9日には、2年ぶりに開催された「エコナイト夏」で、本学のサークルビバブルが参加し、岡山大学の学生と一緒にアカペラライブを披露しました。

これらの取り組みは、ライトアップ施設や家庭の電気

※大学コンソーシアム岡山とは、2006年に発足した、岡山県内18大学、一部短期大学、高等専門学校、岡山県、(一社)岡山経済同友会が構成する産学官連携組織です。





**人間生活学部 食品栄養学科1年
片山結愛さん
「デフバドミントン」全国大会初出場
女子シングルスで優勝**

2022年6月4日(土)～5日(日)に「デフバドミントン」の全国大会「2022日本ろう者ランキングサーキット大会」(熊本市)に初出場し、女子シングルスで優勝しました。

デフバドミントンとは聴覚に障害のある人が対象のバドミントン競技です。片山さんは日本代表の強化指定選手に選ばれ、9月にタイで開催された第6回アジア太平洋デフバドミントン選手権大会において、女子シングルスで銀メダルを獲得しました。



**NHK岡山放送局
「あなたのトナリの大学生
三度の飯より○○!」に
学生たちが出演**

2022年6月6日(月)・7日(火)の二日間にわたり、NHK岡山放送局の情報番組「もぎたて!」内の企画「あなたのトナリの大学生 三度の飯より○○!」に本学の学生が出演しました。

この企画は何かにひたむきに取り組んでいる大学生にスポットをあて、その思いや活動について熱く語ってもらうというものです。今回は俳句や演劇、宝塚歌劇やうらじゃなどに熱中している学生さんが出演しています。



卒業生の活躍

**文学部国語国文学科(現日本語日本文学科)卒業 出射詩都さん
第73回毎日書道展(篆刻部門)会員賞受賞**

第73回毎日書道展のグランプリにあたる会員賞26点が、2022年7月12日(火)に発表されました。出射詩都さん(文学部国語国文学科45期(1997年3月卒))の作品が、篆刻部門で会員賞に選ばれ、7月27日に表彰されました。

卒業生の活躍

**人間生活学部人間生活学科卒業生 小山陽子さん
第69回日本伝統工芸展入選**

国内最大規模の工芸公募展「第69回日本伝統工芸展」の審査結果が2022年8月24日付で発表され、陶芸部門で人間生活学部人間生活学科48期(2000年3月卒)備前焼作家小山陽子さんの作品が入選しました。

小山さんの作品「備前自然練込流水紋鉢」は2022年11月17日～12月4日まで岡山県立美術館(岡山市北区天神町)で開かれる「第69回日本伝統工芸展岡山展」にて展示される予定です。



**文学部英語英文学科3年 守時実香さん
インラインスケート複数の大会
全ての種目において、女子1位を獲得
スピードスラローム女子の日本記録を更新**

2022年3月～5月に出場した大会の全ての種目において、女子の中で1位を獲得しました。さらに、スピードスラロームにおいては、4.745秒をマークし、女子の日本記録を更新しました。

インラインスケートは、アイススケートの刃を車輪に置き換えた、陸上で滑るためのスケートです。

学生広報スタッフSPARKLEによるインタビューはこちらをご覧ください。



**文学部英語英文学科2年
佐々木愛美さん
DO-IT Japanのスカラーに選出**

DO-IT Japan(Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology)は、障害のある若者の中から未来のリーダーを育てるプロジェクトとして東京大学先端科学技術研究センターが主催し、ソフトバンク(株)、日本マイクロソフト(株)、(株)みずほフィナンシャルグループが共催する人材育成プログラムです。

スカラーは年間を通して、オンライン会議への参加や企業訪問、海外のリーダーシップ研修などのプログラムに参加します。

佐々木さんは、2022年8月7日(日)～10日(水)に開催された夏季プログラムに参加しました。

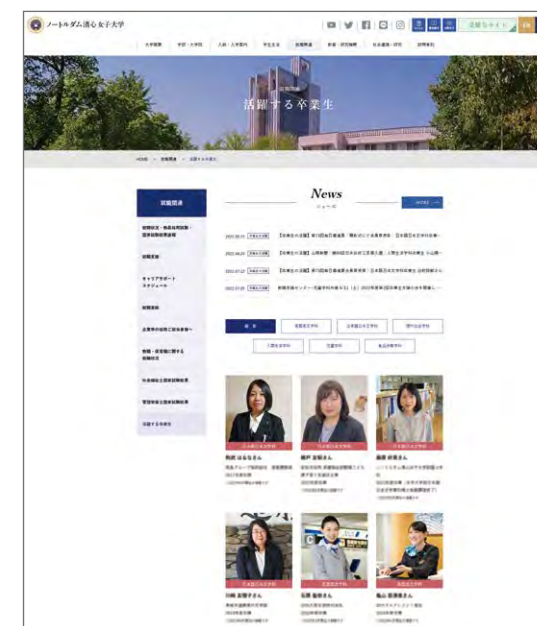
活躍する卒業生を紹介 — 本学での学びを体現! —

大学ホームページでは、本学を卒業後、社会で活躍している卒業生の姿を伝えています。

取得した免許・資格を生かして活躍している方、地元を離れた方、海外で活躍されている方、本学での学びを身に付けたさまざまな卒業生を紹介していきます。

在学生によるロングインタビュー企画も掲載し、随時更新しています。ノートルダム清心女子大学での学びが、今現在、どのように活かされているのかを、卒業生がリアルに語っています。

<https://www.ndsu.ac.jp/career/graduate/>



役職者の紹介

2022年4月1日付



学長
津田 葵
学園理事長



副学長(教学担当)
本保 恭子
人間生活学部教授



副学長(経営担当)
豊田 尚吾
人間生活学部教授



学長補佐
小林 修典
キリスト教文化研究所教授



文学部長
大学院文学研究科長
山下 美紀
文学部教授



人間生活学部長
大学院人間生活学専攻長
大学院人間総合科学専攻主任
戸田 雅裕
人間生活学部教授



英語英文学科長
大学院英語英米文学専攻主任
木津 弥佳
文学部教授



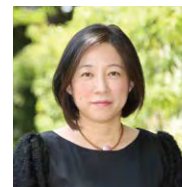
日本語日文学科長
大学院日本語日文学専攻主任
東城 敏毅
文学部教授



現代社会学科長
大学院社会学専攻主任
紺谷 亮一
文学部教授



人間生活学部長
大学院人間生活学専攻主任
杉山 博昭
人間生活学部教授



児童学科長
大学院人間発達学専攻主任
湯澤 美紀
人間生活学部教授



食品栄養学科長
大学院食品栄養学専攻主任
長濱 統彦
人間生活学部教授

2022年度
新任の教員



英語英文学科
齋藤 衛
文学部特別招聘教授



英語英文学科
新野 緑
文学部特別招聘教授



児童学科
梶原 彰子
人間生活学部講師



食品栄養学科
園井 みか
人間生活学部講師



食品栄養学科
安原 香子
人間生活学部助手



キリスト教文化研究所
岡田 紅理子
キリスト教文化研究所講師



国際交流センター
陳 來幸
国際交流センター教授

2022年度
新任の職員

職員			
食品栄養学科	実験実習助手	松岡 誠子	2022年4月1日付
食品栄養学科	実験実習助手	板田 春風	2022年4月18日付

教員		
文学部 教授	英語英文学科	広瀬 佳司
文学部 教授	英語英文学科	ロバート・ウェアリング
人間生活学部 教授	児童学科	平松 清志
人間生活学部 准教授	食品栄養学科	今本 美幸

職員		
食品栄養学科	実験実習助手	石井 みのり
食品栄養学科	実験実習助手	故引 香穂

2021年度
退職の教職員

2022年3月31日付

ノートルダム清心女子大学教育基金<一粒の麦>等へのご協力のお礼

●2021年度寄付金

「一粒の麦」などを通じて、日頃から温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。2021年度の寄付金について、右記のとおりご報告申し上げます。本学では、コロナ禍のもと、これからも学生支援に全力を挙げてまいります。引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

使途名	寄付金額	件数
学術研究・教育活動の奨励または支援	¥100,000	1
教育研究環境の拡充	¥100,000	1
本学学生に給付する学資	¥400,000	6
目的は問わない	¥1,070,210	6
その他	¥15,500	2
合計	¥1,685,710	16

事務部と財務部の統合「総務部」

事務部と財務部が統合し、総務部(2022年4月1日付)となりました。これまで財務部にいただいていたお問い合わせ(学費:授業料等の納入)は、総務部で受け付けます。お問い合わせ先:086-252-1155(代表)、086-252-5094(旧財務部電話番号)

組織変更の
お知らせ

組織名称変更「教職課程センター」

教職支援センターの名称が、「教職課程センター」(2022年4月1日付)に変わりました。支援内容はこれまで同様、教員・保育士をめざす学生の主体的な学修を支援しています。教職課程センターでは、教職・保育職採用試験対策講座なども実施しています。さらに、学生が学校園の現場で学び実践的な指導力を身に付けるボランティア活動の支援、学校園の現場で勤める卒業生の情報交換や学習の支援も行っていますので、教職を目指す学生はぜひご利用ください。

名誉教授
称号授与

2022年4月1日付、名誉教授称号が授与されました。

- 広瀬 佳司 教授
- ロバート・ウェアリング 教授
- 平松 清志 教授

訃報

ご逝去されました故人の永遠の安らぎをお祈りいたします。

- 本学名誉教授 氏平 一郎 先生(2022年6月17日)
- 本学名誉教授 沼本 和子 先生(2022年8月18日)

編集後記

2022年度から対面授業が始まり、2年ぶりに学生の姿であふれる活気あるキャンパスが戻ってきました。まだまだ感染症予防は必要ですが全学で注意しながら、学修・研究をすすめているところです。学生生活においても、クラブ活動など増えつつあるようです。

208号の発行が遅れてしまいお詫び申し上げます。発行にあたり、ご協力くださいました卒業生、在学生、教職員の皆様にご挨拶申し上げます。(広報室)